

大会派遣 / 研修会参加

2018年度 JFA フットボールフューチャープログラム 参加報告

「FFPトレセン地域育成担当インストラクター研修会」に参加して
 ----- 2級インストラクター：中村 正光 -----

8月2日（木）～8月5日（日）に開催されました「2018年度JFAフットボールフューチャープログラムトレセン地域育成担当インストラクター研修会」に参加しました。

この研修会はU-12の試合を対象に各都道府県からユース審判員45名、インストラクター24名が参加し、全国で東日本（岩手/花巻）、中日本（静岡/時之栖）、西日本（愛媛/新居浜）の3箇所に分かれ行われました。

全体の研修テーマは「目標を定め、自分の立ち位置を確認し、課題を明確にする」、ユース審判員のテーマは「自分のことばで事象を説明できるように見するための動きとポジション」、地域育成担当インストラクターのテーマは「審判員の立ち位置に合った課題の抽出とアドバイス」です。私が参加した中日本（静岡/時之栖）では、19名のユース審判員と10名のインストラクターが参加し、私はJFA川村氏のもと愛知の加藤氏とペアで4名のユース審判員の指導に携わりました。



【1日目】

1. 開講式 13:00～

12:00 三島駅に集合後、バスで時之栖スポーツセンターへ移動、13:00より開講式、JFA小川審判委員長、小幡氏、吉野内氏よりご挨拶を頂きました。

審判員は大会役員であり審判員だけをやりに来たのではない会場設営等試合運営がスムーズに行えるよう積極的に協力する事、服装、身なり、言動に気を付けて行動すること、分からない事、おかしいと思った事は必ず誰かに確認する等指導を受けました。

その後ユース審判員はグループ別に「各自のテーマの確認」、「4日間で行うべき大事な事」をディスカッションしました。

2. 講義① 「目標、課題の明確化」 14:30～

ユース審判員は各グループに分かれ自分の課題を付箋に書き、その課題を上げた理由、その課題に対し今出来る事、目標を達成する為に取り組むべき事をディスカッションし優先順位を明確にしました。

担当インストラクターはディスカッションの様子、発言内容、頻度、表情等を観察し各審判員の性格・特徴を観察します。はじめての顔合わせなので冗談を交え質問し多く発言するよう促しました。結果、その後は自分達で積極的に話すようになり良い雰囲気になりました。



3. 講義② 「試合分析、指導にあたり」 15:30～

インストラクターには以下のような指導がありました。

- (1) 具体的に褒める。
なぜ良い判定が出来たのか、その原因はどの段階の判断が良かったのか、何に気が付いたのか、その理由は？等深く掘り下げ褒める。
- (2) ”他の人があの判定は良いと褒めていたがその理由は何だと思う？”
他の人を用いる事で選択肢を多く引き出し、優先順位と判断基準を導く。
- (3) 試合の全体感を持たせる。
試合の状況、競技者の意図、戦術、展開を考えさせる。
- (4) “難しい事象”では終わらせない。
原因を追及し次の課題を見出させ答えを導く。
- (5) 映像を極力用いない。
映像に頼ると考えようとせず答えを安易に出す傾向がある。

ユース審判員に対して質問を投げ掛けた後、「理解、納得している程度をどう量るか。」が、私の課題です。
表情や回答内容から何を感じているのか？よく審判員を観察し理解しやすい質問内容をその都度、考えなければならぬと思いました。



4. レフェリング分析 「実践」

今大会では、日中の猛暑を避けるため 8:30、9:40、16:30、17:40 に試合が開始されます。試合時間は 15 分×3 本、1 人制審判です。

私は初日 1 試合目 16:30 の試合を担当しました。審判員は少し緊張していましたが、自己の力を示すべく早い動き出しとダイナミックな動きで、近くで判定する事に努めていました。

試合後、レフェリングの課題は「次の争点に対する見る角度、距離の予測の不足」、「争点に対し串刺しになる危険性の欠如」等、動きとポジショニングでした。動き出しは良いが次の争点を予測していないためブレーキングポイントが曖昧で大きく争点から行き過ぎプレーの邪魔やパスコースに迂闊に入ったり、争点から離される事が散見されました。私は審判員に記憶に残っている事象を確認し「何の為に、そこに行ったのか?」、「どうすれば良かったのか?」見るべきものと場所、タイミングを審判員に問い掛け問題点を掘り下げ、答えを見出させる事に集中しました。

極力私はしゃべらないように心掛け何が問題なのか気付かせる為、質問を行い、理解、納得しているか表情、発言内容から推測をしました。否定は行わずより多く発言させ、その内容の優先順位、矛盾点、問題点を質問し答えを引き出す方法です。

振り返りの最後には再度審判員自身が引き出した課題と対策を確認し、十分に落とし込むように心掛けました。



5. 講義③ 「審判員のプロフィール」 20:15～

- (1) 情報収集力・・・観察力、洞察力、直観力、意識、興味、ポジショニング等
- (2) 判断力・・・判断の速さ、競技規則の理解、反則の強度、選手の理解等
- (3) 実行力・・・進め方、シグナル、マネージメント、リーダーシップ等
- (4) 個性・社会性・・・自身の理解、プレゼンス、義務と責任、リスペクト等

講義①でディスカッションした内容を上記プロフィールにまとめました。

【2日目】

1. レフェリング分析 「実践」8:30～、9:40～

暑い！子ども達の元気さに感服する。

2. プラクティカルトレーニング 11:00～

(1) オフサイド

主審として見るべきもの、副審として見るべきもの、ポジショニングと見る角度、判定精度とフラッグアップのタイミング、主審と副審の協力等繰り返し回数を重ね指導する。主審はオフサイドを判定しようとボールと競技者を注視するため、ポジションが悪く見極めが出来ず、ほとんどの審判員が副審を頼っていました。どの位置で見れば、より分かり易いのかインストラクターの指導を受けながらポジションの修正を行いました。

また副審もシグナルのタイミングが分からない者、オフサイドの見極めが出来ない者も見かけられ、主審を見ないため差し違いを起こす事も多くありました。都度一声掛け次の修正ポイントを示してトレーニングの回数を増やす事に心掛けました。

(2) 事象を見る角度

ボールを回し競技者はレフェリーに見えないように‘じゃんけん’をする。レフェリーは見える位置へ動く。見える角度と見えない角度を認識し、いかに角度付けを行うか？その方法と動き出しの重要性を確認した。

主審のスタート位置、デモンストレーターのスタート位置で難易度が変わる。インストラクターも主審の技術レベルを見ながら場の設定をその都度調整する必要性を感じた。

このプラクティカルは比較的簡単で調整しやすいが、複雑になればプランニング時に技術レベルに応じてどう調整するのか事前に想定する重要性を認識しました。

3. レフェリング分析 「実践」16:30～、17:40～

4. 講義④ 「技術と審判の協調」 20:30～

- (1) 世界のスタンダードと日本のストロングポイント
技術、組織力、持久力

- (2) 選手の育成強化
「全員攻撃、全員守備」、「積極的に本気で奪いに行く日常」
→これが100%というインテンシティの高さ、戦術的柔軟性、ボールを奪いきるアプローチ。
- (3) 選手に求める事
・闘える ・チームへの貢献 ・信頼出来る ・自己解決力
- (4) 審判員に求める事
・スピーディー（選手：プレーに集中し判定を受け入れ次のプレーに移る。）
→素早いセットプレーを保障し、やられたチームが損をしないようにする。
・フェア（選手：相手に危害を加えるプレーをしない。）
→正当なチャージを見極める。選手の意図を読む。
・タフ（選手：プレーを続ける強い意志。）
→アドバンテージの適正かつ積極的な適用。



【3日目】

1. 地域INSによる指導 8:30～

指導対象審判員に課題に応じた指導を行います。私達のグループは「動きとポジションング」が課題でした。フィールドで2種類のトレーニングを実施しました。

- (1) ボール回しⅠ（手を使って）・・・加藤 INS
インストラクターを入れ5人で手を使いボールをパスし、主審役はパスに邪魔にならないように動きます。他の選手が手を上げたら笛を吹きます。立ち位置を考えながら視野の確保と注意力が試されます。
- (2) ボール回しⅡ（足を使って）・・・中村 INS
次に足でボールを回します。3人1組で競技者役、主審に分かれ、競技者は主審を中心にトライアングルを組みボールを回します。主審はトライアングルから逃げる動きをします。ボールの出し手と受け手を視野内に入れる動きのトレーニングです。
当初はボールを注視していたため上手く動けずプレーに巻き込まれることが見られましたが回数を重ねるにつれ徐々に見るべきものと見るタイミングを調整し、プレーに巻き込まれる回数が少しずつ減りました。
- (3) 映像分析
映像で試合中プレーに巻き込まれる恐れのあるシーンを抽出し、どうすれば回避できたのか議論しました。フィールドシートを使い全員で、いつ、何を見れば良かったのか？そしてどこに行くのが最良か？様々な可能性を検証しました。（この後、審判員達は自主的にフィールドで再現し議論をしました。）

*反省点

気温の高い中トレーニングを行い過ぎた為か、内1名がその後の試合中、熱中症の症状が出る。状況を把握し適度なトレーニングにするべきでした。

2. 講義⑤ 「フィジカル研修」 10:00～

- (1) 正しい姿勢と呼吸・・・チェックと矯正
- (2) 水分補給・・・養分と濃度、適温と摂取量、各種ドリンクの特性
- (3) 試合に向けての調整・・・生活バランス、睡眠時間、自律神経の乱れ
- (4) 試合後のケア・・・リカバリー、バランスの良い食事



〔姿勢のチェック〕



〔姿勢の種類〕



〔風船を利用したトレーニング〕



〔呼吸法〕

3. 講義⑥ 「審判員将来設計」 11:30～

- (1) 2035年の社会
- (2) “幅”を持った視野とコミュニケーション能力を持つ。
- (3) 抱負と目標の違い→期限を想定した行動計画。長期的な目標の具体化。
- (4) 将来“こんなはずではなかった？”→何故？→今の立ち位置で納得出来るか？
- (5) サッカーだけでなく世界に通用する社会人になる。

4. 講義⑦ 「指導者研修」 13:00～

(1) 担当審判員の性格分析

長所・・・3点、短所・・・3点 抽出する。

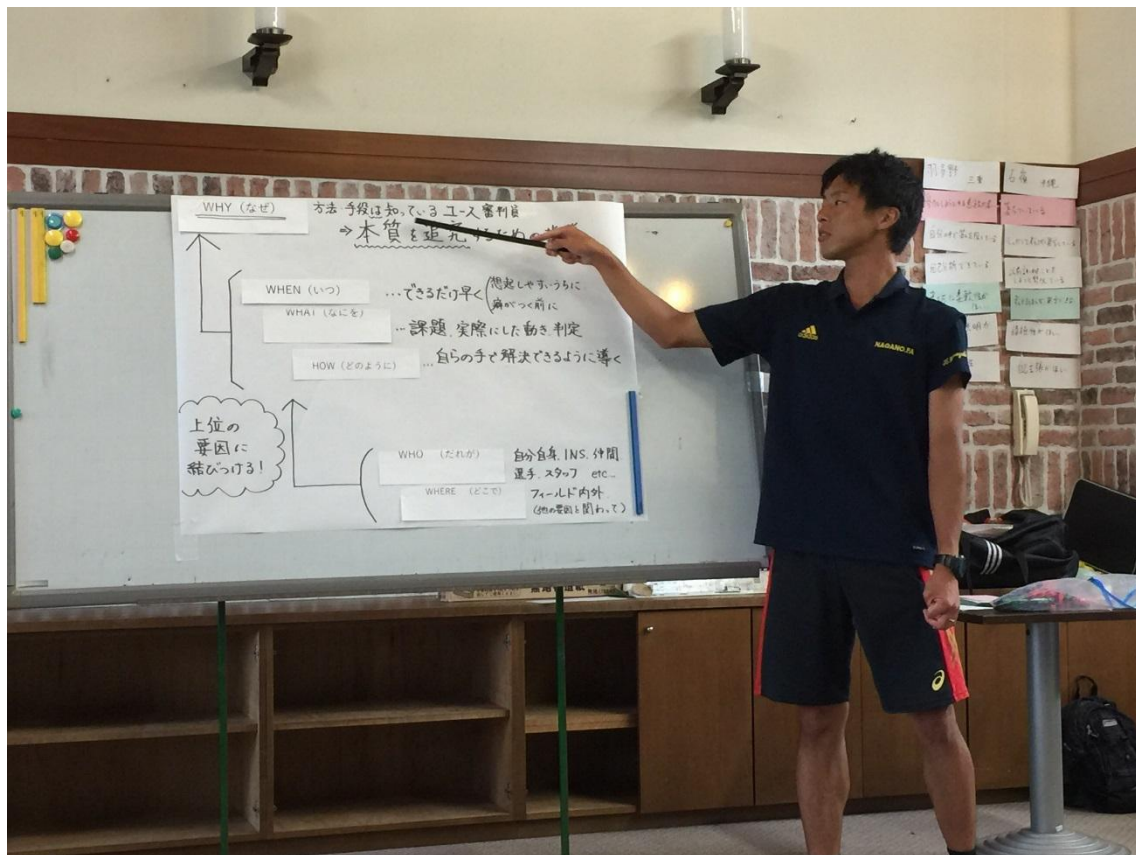
性格の分析を行い、それに応じた指導方法を考える。例えば自己表現力が苦手な場合は、自身の考えに対し優先順位を質問し、分かり易く説明出来る状況を作り出す等。

(2) ユース審判員の育成指導において5W1Hで考える重要なポイント

ユース審判員の生活環境、特性、技術レベルを考慮しHow Why What Where When Whoで何を考えなければならないのか、何が重要なのか？優先順位はどうなのか？を議論をしました。

私の班では「何を学ぶのか?」、「目的は?」(Why) が1番で続いて、それに対し「どのように指導するのか」(How)、そして「誰が指導するのか」(Who)、時間的制約がある為、「いつ」(When)、「どこで」(Where) となりました。

ユース審判員の目的意識が一番重要と考え、指導方法・手法を選択します。指導者の選択も様々で時には現役選手、関係者、有識者等幅広く考えます。しかし実情では地域で適した人物が少なく、ユース審判員育成指導者の養成が喫緊の課題だと感じました。



山崎氏（長野県）

5. レフェリング分析 「実践」 16:30～、17:40～

6. 競技規則テスト 20:00～

勉強不足？点数の低さに少し驚きました。

【4日目】（最終日）

1. レフェリング分析 「実践」8:30～、9:30～

いよいよ最終日となりユース審判員は思い残す事無くレフェリングを行うよう気合いが入っています。ウォーミングアップにも力が入り4日間で学んだ事を落ち着いて実行出来るよう精一杯頑張る気持でいっぱいでした。

結果は1日目と比較し明らかに動き方とポジションに変化が見られました。プレーに巻き込まれる回数も減り、判定も近くで行っています。競技者、周囲、スペースに注意を払うため自然に動き出しが早くなり、足を止める事無く動いています。何よりも嬉しかったのは周囲を確認する真剣な目つきです。集中している姿は純粋に自分の出来る事を誠実に実行しようと努めている事が分かります。

試合が終わり審判員に感想を聞くと、プレーに巻き込まれる回数の減少、次の予測が今までと違い多く出来た事を実感したと振り返りました。審判員にとって大きな自信となっていました。

以上で4日間のプログラムを終え閉講式となりました。

将来この研修会に参加した審判員が活躍する事を期待するとともに、いつかどこかのフィールドで彼らに会えることを楽しみにしています。



【総括】

1. 審判員に対して強調したかった事。
サッカー観、審判観、競技規則の正しい理解
2. 審判員に伝えたかった事。
自分自身で今の課題、問題点を把握し認識する。その原因を掘り下げ考え、原因を徹底的に究明する。そのためには何をすべきか、解決策を見つけ実行する。自己改善能力の重要性を伝えたかった。
3. 審判員の求めている事。
問題点と解決策、今出来る事と力量に応じたアドバイス。
4. 指導者として課題と感じた事。
一方的かつ安易に審判員の判断力・実行力を想定する事が課題だと感じた。彼らは非常に前向きで、様々な事を考え悩んでいる。彼らの言葉、表情を観察し気持ちを理解し、次の試合の課題・対策を自身で考えチャレンジ出来るよう愛情を持って審判員の気持ちに沿ったアドバイスを行う事が重要だと感じました。

【最後に】

このような素晴らしい研修会に参加させて頂き非常に感謝しております。ここで得た貴重な経験、知識を地域に持ち帰り微力ながらユース審判員の育成に役立てたいと思います。JFA、関西、兵庫県サッカー協会、大会関係者の皆様ありがとうございました。



〔共に学んだ5名 岸村君/奈良、姫野君/京都、岡村君/鹿児島 礪波君/石川〕

以上